知恵の樹
No. 155 2010. 12. 15
町田の図書館活動をすすめる会
事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

# 町田市立図書館協議会の図書館評価を実施して

町田市立図書館協議会委員長 松 尾 昇 治

## はじめに

2008 年 6 月に図書館法の改正が行われ、図書館の運営状況の評価とその結果に基づく運営の改善を図ることが定められた。町田市立図書館は、はやくも2008年7月には「図書館評価プロジェクトチーム」を発足させ、図書館評価の目的・方法等の検討をはじめた。この結果は「町田市の図書館評価」(2009年3月、6月改訂)報告書となり、公表されている。この報告に基づいてできあがった評価項目は、図書館運営とサービスの全般にわたっているため、対象事業項目数は43項目と膨大なものとなっている。評価のスタート年度は 2009 年度事業からで、2010 年4月から職員による評価作業がはじまり、7 月には図書館の「自己評価」結果を公表している。同月、図書館協議会は、図書館評価の「外部評価者」として、図書館長より評価点の判定とそのコメントを依頼された。ここでは、図書館協議会における評価活動を中心に報告したい。

## 評価活動

図書館協議会が評価を行うことは、はじめてのことであり戸惑いもあったが、やるからにはしっかりした評価をしたいとの意思確認をおこない、全委員が評価活動に参加することになった。通常の会議の中で、評価論議を行うことは困難であるため、図書館評価のための会議を別に開くことにした。全委員を4つの担当グループに分けて、グループリーダーを置き、グループごとに8月中旬から下旬にかけて、それぞれ1回の討議を行った。(委員が複数グループを担当していたので大変であったことと思う。)その結果を受けて、9月からは4回の全体会議を開催して、各グループが作成したコメント案の集約とそれに基づく評価点の判定の討議を行った。討議過程では、必要と思われる各種の統計や資料等について事務局に提出を依頼することになった。これらの資料類は、評価をおこなうために必需のものなので、来年度以降は当初より用意されていることをお願いすることとした。このような経過を経て、外部評価判定及び外部コメントを作成することができた。この間、頻繁に会議を開催する時間がないことから、委員間で頻繁に電子メールによる意見交換をおこない、評価点とコメントの完成に至ったことを付記しておきたい。そして、最終確認を経て、図書館長に提出したのは 10 月 26 日であった。

## 評価内容

43 項目にわたる事業を、ABCの判定点だけで決めつけてしまうのは困難であると思う。むしろコメントを注視していただきたい。評価会議の論議はどのようにコメントするかに集中した。この論議がしっかりできれば、点数判定はそれに続いてできるものである。ここでは、判定点とあわせてコメントの要点を大項目ごとにまとめてみたい。

**「Ⅰ 適正かつ効率的な運営をめざす図書館」**では、自己評価と外部評価との判定点が一致している。しかも、Aと判定したものが多い。目標に近い運営がなされていることになる。なかでも、司書資格者配置率は 83.1%と高率であるが、そのことを踏まえ、「町田市立図書館のサービス理念と目標」の職員への徹底を図ることや職員研修が必要であ

ると記述している。

「Ⅱ　基本を大切にした図書館」では、B、Cと判定されている項目が両者とも多い。この項目は副題にあるように、「市民全般に対して行うサービス項目」である。A判定が多いことが望まれる。ここでのコメントは利用者アンケートの結果を踏まえたものが多く、利用者が図書館サービスに対して、どのように感じているかを表しているところである。職員の市民への対応やリクエストサービスはAと判定されているが、個人情報への配慮やリクエストのルールやシステムの改善なども求められると記述している。アンケートから利用者の図書館満足度などをはかることができるのに、利用者アンケートの実施が2010年度の評価項目から消えてしまったことは残念なことである。

「Ⅲ　誰もが利用できる図書館」では、協議会の評価は厳しく！ということであろうか、両者で判定が分かれたところである。ここでは各事業の対象者に対する広報活動を一層進める必要があるとのコメントが多くあり、事業の存在や内容を広く市民に伝えていくことの必要性が記述されている。

「Ⅳ　市民とともに歩む図書館」では、両者の判定項目の相違が地域文庫等への支援で見られ、協議会のコメントは要綱等の改善を求めている。また、利用者懇談会は参加者が７名と少ないことが気になるところで、テーマ等の設定の工夫を求める記述になっている。

**図書館の自己評価と外部評価の比較**

| | 自己評価 | | | 外部評価 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | A | B | C |
| Ⅰ | 6 | 3 | | 6 | 3 | |
| Ⅱ | 5 | 6 | 2 | 5 | 4 | 4 |
| Ⅲ | 5 | 4 | | 4 | 3 | 2 |
| Ⅳ | 2 | 3 | | 2 | 2 | 1 |
| Ⅴ | 6 | 1 | | 4 | 2 | 1 |
| 計 | 24 | 17 | 2 | 21 | 14 | 8 |

「Ⅴ　公共施設として果たすべき機能を有した図書館」では、両者とも A 判定が多い。市民への PR は、B、C と判定していて、ここでも広報活動が不十分であるとコメントしている。公共施設としての機能役割をどう市民にアピールするかの工夫が必要との認識を示したものである。

**評価の方法／大項目**

**Ⅰ　適正かつ効率的な運営をめざす図書館**
（運営に関する項目）
**Ⅱ　基本を大切にした図書館**
（市民全般に対して行うサービス項目）
**Ⅲ　誰もが利用できる図書館**
（対象を限定して重点的に行うサービス項目）
**Ⅳ　市民とともに歩む図書館**
（市民協働に関する項目）
**Ⅴ　公共施設として果たすべき機能を有した図書館**
（公共施設としての役割に関する項目）

**まとめ**

先にも述べたとおり、図書館のサービスや活動を、A、B、C の三段階で評価することは難しいところである。点数判定だけが一人歩きしては困ると思う。むしろ、コメントを注視すべきであると思う。A判定といえども安心はできない。C判定は、必ずしも「不十分」とのみとるべきではなく、今後の努力に期待するとの意を込めたものであり、サービス内容を引き上げてもらいたい事業である。

初めての経験であった図書館評価も終わり、評価方法そのものの改善も見えてきた。今後、より良い評価システムを築くことは図書館、協議会、両者の務めと思う。協議会では、討議をへて気づいたことなどを「町田市立図書館の図書館評価に関する報告」という文書にまとめて館長に提出した。報告では、外部評価のあり方について3点の改善点をあげた。①評価をするにあったっては、図書館業務についての各種資料が必要、②数値目標での評価は困難な点があり、根拠理由やデータの提示が必要、③アンケート方法や集計の改善や開示方法について細かい対応が必要という指摘である。さらに、今回の図書館協議会による評価結果が、今後の図書館の取り組みにどのように反映するのかが明確になっていないなども指摘した。

「外部評価者」としての活動は、図書館協議会としても貴重な経験であった。評価をする過程の中で図書館活動についての認識を新たにすることができた。このことを町田市立図書館協議会の財産として今後の活動に活かしていきたい。

※　図書館ホームページに図書館評価のコンテンツが載っています。　　（会　員）

於：町田中央図書館　　主催：図書館まつり実行委員会

# 「国民読書年」・中央図書館開館 20 周年記念事業　盛会裏に終了

## ～　一連の流れから　～

**すすめる会で**

すすめる会の3月17日の定例会時、今年11月30 日は中央図書館が誕生して 20 周年目を迎える、そのため図書館では、職員が様々な催しを考えている、と図書館長の守谷さんより報告があった。

毎月、仲間や有志の職員と話し合いが出来る当会の定例会は、ホットな情報やオフレコなニュースが、いち早く飛び込んできて、報告だけではなく、それをどうすべきか、という話題にまで発展することが多々ある。この日も、市民のための図書館なのに何故図書館だけでやるのという素朴な疑問が湧き、市民も一緒にお祝いしたいわよね、ということになった。館側は、そのための予算はゼロなので何の助成も出来ないというが、図書館と市民は、してやる・してもらう、の関係ではないはずだ。もっともっと市民を信頼して、図書館発展のために何でもぶつけあって互いに意見を言い合える仲でいたいのだが、どうも歩み寄ろうという姿勢は上目線からのものが多いように感じる。

同じ目線で意見を言い合える関係を可能にするのは、職員に対する市民の信頼もなくてはならない。利用者(市民)を差別したり偉ぶったり、また明らかに自己主義な職員がいる限り、市民はその苦手な職員を避けて何も言わなくなる。図書館のために職員と一緒に何かをやりたい、と思える職員集団であって欲しいと願う。

**お祭に向けてスタート！**

すすめる会での話し合いは、図書館長を通じて成熟した職員集団にも受け入れられ、具体的な話がすすめられた。図書館にとって 2010 年は、BM 運行 40 周年・金森図書館新築移転 10 周年という節目でもあり、また、国民読書年でもある記念すべき年に当たることから、この年の 4 月から 12 月まで様々な催しを企画するという。

話し合いから、その内の 11 月 23 日から 28 日迄をコア期間として位置づけて、市民も団体独自のイベントを持ち寄り団体の責任においてお祭を盛り上げようということになった。

館側より図書館の登録団体に働きかけてもらい、6月1日に行なわれた事業説明打合せには 20 団体が参加、実際に祭りにイベントや展示で参加したのはその内の 17 団体であった。祭の主催を「図書館まつり実行委員会」とし、事務局を「図書館記念事業プロジェクト」の職員が担うことになった。実行委員長には水越規容子さん、副実行委員長には丸岡和代さんが引き受けてくださり、参加団体は主体的に責任を持って関るということが共通認識された。

5回に亘って話し合われた実行委員会では、官としてやった方が効果的なもの・民としてやった方がスムーズにやれることなどを討議しながら、協働体制を組んで双方に余り負担がないようにとすすめられた。期間中、ホールに飾るお花についても、生花では管理が大変だということから、造形盆栽を主宰しておられる豊島伊都子さん(当会会員)に相談したところ、快く「市民文化祭でいろいろ展示しているから好きなものをどうぞ」という返事を頂き、仲間と出かけて大きくて色鮮やかな紅葉をタダでお借りすることになった（その紅葉はスポットライトを浴びて祭の期間中会場を華やかに盛り上げてくれていた。豊島さんに感謝！）。

図書館まつりのキャッチフレーズを考えたり、図書館シンボルキャラクターに応募してきた作品(139 点）を選考＜最優秀賞 1 点「よむぽん」（副賞3万円図書カード・優秀賞2点（副賞1万円の図書カード）・子どもへの特別賞2点（絵本）、他＞したり、各参加団体から出されたイベントの日程調整をしたりと、祭の裏方として結構楽しい時間を過ごさせていただいた。

図書館は、図書館へ人を呼び込もうとシンボルマークの入ったクリアファイルを1300枚、毎日午前と午後時間を決めてエントランスで配布、カラーの立派なチラシ 1 万枚も、図書館始め関係機関に配布し完配した。

**すすめる会主催の講演会**

すすめる会では、オープニングとドッキングして、若者を図書館に呼び込みたいという意図から、今話題の亀山郁夫氏の講演会「文学の力～ドストエフスキーと現代日本～」を開催した。

13時00分開場、12時に整理券を配る手はずで当日を迎えたが、図書館開館の 10 時から並ぶ人がいて会場は大入り満員、若者の顔もチラホラ見え亀山先生の講演に聞き入っていた。

学校図書館を考える会や、まちだ語り手の会、

かえで文庫、野津田雑木林の会といった当会の団体会員も、実行委員として活躍し、それぞれ講演会やお話会展示などで、祭に参加した。これらの報告は次号に掲載する。

**エンディング**

最終日28日の最後に行なわれた実行委員会主催の「みんなで語ろう！これからの町田の図書館」には、図書館からは館長、副館長、係長はじめ8名の職員が参加。守谷館長からは**「これからの町田市立図書館」**として、**1．図書館の現在**（1）どこまで進む!？～図書館の“IT革命” （2）ますます高まる図書館への期待 （3）図書館としての成長・発展を阻害する要因、 **2．図書館の役割**（1）市民が必要とする資料・情報を確実に提供する」という大原則、 **3．これからの町田市立図書館**（1）どこに住んでいても図書館サービスが受けられる体制の整備 （2）きめ細かなサービスの展開（3）“子どもたちと本との出会い”のサポート、について熱く語られ、市民と一緒に育てる図書館、協働するためには、を「まとめ」とされた。

吉岡奉仕係長からは、5年間の町田市立図書館の主要な統計が資料として出され、個人登録者数や登録率の減少に比して、1．5倍にもふくれあがったリクエスト数とその本を置く棚がなくなってきているという切実な問題、地域利用者のPRをどうするかなど、図書館の抱える悩みと現状が分かる説明がなされた。

市民の参加は30名程であったが、1時間半という短い時間、次々と手が上がり未消化のまま時間となった。こうした話し合いの場で、浪江先生がよく言われていた自立した市民が図書館を支えていくという自立とは何かをいつも考えさせられる。何かを要求するのではなく共に目的を見て話し合える関係、それでなければ協働はできないのでは、と。

11 月 30 日に、記念イベントの反省会が行われたが、その席でも、祭を毎年やって欲しいという市民と「今後も、皆さんの活動を発表する場としてこうしたお祭を・・・」という一図書館員の発言から、そんな考えでは協働はできないよ、とつぶやく自分がいた。

紙面の都合で、これで終わりとする。大事な報告は次号に掲載予定である。　　（増山）

## 移動図書館「そよかぜ号」の運行開始４０周年記念事業　　報 告

「知恵の樹」No.152 でご紹介した表記事業は、11 月末で終了。その結果をご報告します。

① パネル展示（10/1～31）：多くの方に移動図書館の写真・歴史・巡回場所等を見てもらいました。

② BMのぬりえ・大募集：ぬりえに限らず、「そよかぜ号」の絵を描いてもらうなどして、さるびあで 105 枚、堺で 25 枚の回収がありました。配布終了後も用紙を欲しいとの声があり、要望に応えました。

③ BMに関する利用者・職員の一言集「そよかぜに一言」の展示には、BMの思い出、感想などが49枚寄せられました。

④ BMクイズは、BMと館内で児童対象に配布、また体験学習（⑦参照）の際にも配り、ヒントを参考に回答をしてもらいました。正解には、花丸をつけて、移動図書館「そよかぜ号」のハンコ（作成）を押しました。全部で 660 枚印刷しました。

⑤ BMシールを作成しBMクイズの回答者、BMの土日展示の入場者等（いずれも児童）に配布、また体験学習の際にも配布しました。この他、さるびあ図書館では、移動図書館「そよかぜ号」のハンコを押した「しおり」を手作りして、BMの各サービスステーションで主に大人に配布しました。結果は、シール 300 枚、しおりは、546 枚配布。

⑥ BM2，3号車にて 10/23（土）、24 日（日）の 2 日間、午後2時～4時半の間パネル展示を行ないました。展示内容は、移動図書館の写真・歴史等＋「そよかぜに一言」、サービスステーションの地図。同時にBM用の利用案内、巡回日程表も配布。結果は、23日（土）の来場者数が一般 68 名・児童 65 名・貸出22冊、24日（日）は、来場者数が一般 72 名・児童 49 名・貸出が 37 冊でした。

⑦ 移動図書館「そよかぜ号」の体験学習は、2 日間図師小へ出向き、11/25（木）3年生 47 名、29 日（月）4年生 66 名 （いずれも3校時）に、図書館の仕事、図書の分類・並べ方や利用方法の説明・移動図書館の説明などを行いました。子どもたちは、熱心に説明を聞き、見学しました。また、教員にも好評でした。

⑧ パネル展示「BMトリビア」は、堺図書館内で11月中実施。トリビアとは、雑学・些末な、という意味のことで、一例として、Q：BMは全国で何台活躍している？→A：599台、といった設問と答えを、模造紙4枚・写真（カラーコピー）7点・その他資料2点で展示を行いました。

註：①～⑤はさるびあ＋堺、⑥と⑦はさるびあ、⑧は堺が行いました。（さるびあ図書館　黒田）

## 町田市図書館嘱託員労働組合第４回定期大会　開催
**於：12 月 2 日（木）19 時～、中央図書館ホール**

例年通り、すすめる会を始めとする来賓の方々をお招きし、嘱託組合員 83 名中 76 名の出席をもって開催されました。今年度は規約改正を含め、協議事項が多数ありましたが、昨年度の教訓を踏まえ、事前のミニ総会やアンケートによってできる限りの意見の集約を図った結果、円滑に議事を進めることができました。会場を見渡せば、空席がないほどに埋め尽くされた組合員の顔、顔…。役員としては、これだけの人達の声を聞き、まとめていかなければならないことの重さを、改めて実感しました。

新年度は、発足当時からの役員の顔触れとポジションが、少しだけ替わりました。執行部に新しい風が入り、活性化されることと思います。野角委員長も、町田のみならず、自治労の都本部や非常勤等職員全国協議会の全国幹事を務めるなど、活動の場が広まっています。今まで以上に組合員一人ひとりが、できることをできる形で参加していく姿勢が求められます。ここ1、2年、他市区図書館で経験を積んだ若い組合員が急増しました。様々な経験や視野を持った若い世代が組合活動に参加し、サポートしていってくれることを願います。

図書館界は町田に限らず、有数のサービスを展開してきた他市の図書館にも厳しいものとなってきています。その状況は職員の処遇だけではなく、知る権利を脅かす図書館そのもののあり方を揺るがすものです。今後とも組合員一同、来賓及び市民の皆さんのご指導とご支援を頂きながら、職務に励んで参りたいと思っております。よろしくお願い致します。

（ さるびあ図書館　斎川　美江）

---

―まちの図書館、いなかの図書館　４―

## ブックスタートについて

**玉目　哲廉**

ブックスタートをご存知だろうか？　ブックスタートはイギリスのバーミンガムで 1992 年に始まっている。 移民を受け入れていたイギリスは、英語を話せない・読めないという人々とその子どものために、絵本をプレゼントし、家の中に読書環境や子どもが育つ環境としての子育て支援策を実施してきている。2005 年からは、政府の全面的な財政支援によりほぼイギリス全土で実施されていると紹介されている。

日本でも以前図書館雑誌等で紹介されている。

大津町では、県内でも早い方であったが 2004 年度から図書館に予算をつけてもらい実施してきた。町の乳幼児の検診は年に何回もスケジュールが組まれていて、その中で6～7ヶ月児検診者を対象にした。検診は、老人福祉センターで行われていたので、毎月第2水曜日の午後1時 30 分から4時までの間で、保健士さんの聞き取りや、小児科医の問診が終わり、栄養相談などの合間に、本を家庭で読んであげることの大事さをお母さん方に説明し、ボランティアの方が絵本を読んであげていた。そして検診が終わり帰る時にブックスタートパックを手渡していた。検診で疲れていたお母さんたちは、プレゼントに喜んで家路についていた。

町は、ブックスタートのために 50 万ちょっとの消耗品費を計上していた。対象人数は 300 名であった。一人当たり 1680 円であるが、これにより家の中に本があり、いつでも絵本を読んであげられる環境が出来ていた。

お母さんたちに聞いてみると家に絵本がたくさんあると答える人もいれば、1冊も無いという人もいた。双子の時は、本がダブらないようにそれなりに工夫した。また、何年も続けていれば上の子がもらっているとか、あの本が欲しいという人も出てきたりしたが、出来るだけ要望に応えた。

家の本で足りなくなってきたら、町の図書館を利用しに来て欲しいし、そのための政策であった。

いま、ブックスタートを実施している自治体は、11 月 30 日現在で 753 市区町村であり、全国 1750 自治体の 43％になる。どこで実施されているかは「NPOブックスタート」のホームページで紹介されている。

どこの自治体も子育てを支援するといいながら具体的にできることをやっているところといないところではその環境に差がついてきている。

財政の問題ではなく、意思の問題で政治の問題である。　（会　員）

# 武井澄子さんを偲んで

去る 11 月 24 日、喪中葉書が届いた。

「本年五月十七日に　妻 澄子が永眠いたしました／図書の仕事と歌とコーヒーを愛し１年２ヶ月の療養後／新緑の季節に六十四才の生涯を閉じました・・・・　平成二十二年十一月」

会員の武井澄子さんが、もう半年も前に亡くなられていたという葉書だった。しばらくは、自責の念に駆られ呆然として何も手につかなかった。

癌を患い療養中との電話をご本人から頂いた時、見舞いに行くことを告げると、良くなっているから、そろそろ退院をするからという言葉を信じた。それから入退院を繰り返しておられたようだが、みんなには内緒にしておいて欲しいと言われ、例会ではそれとなく話したのに留まっていた。そのあと、何回か、メールでお知らせをしたりお誘いをしたりしていたが、いつもまめに返事を下さる人が、何の返事もないので気になりつつ、つい忙しさに紛れて日を過ごしてしまっていた。ほんとにごめんなさい。ひと目お会いしたかった・・・。

武井さんにはいろいろと相談にのってもらった。町田の学校図書館をどうにかしなければと考える会を発足させる際も、市民病院図書館が立ち消えになろうとしていた時にも、真剣に関ってくださり、専門的立場からｱﾄﾞﾊﾞｲｽをして下さり何かと力になって下さった。

市民の動きが発端となって、図書指導員という有償ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの形で町田の学校図書館にも人が入ることになったのだが、常に専門・専任・正規を謳っておられた武井さんにとって、率先して働きたかった職場だけに、そうした形での配置をとても憂いておられた。

市民病院の医療に関る人の図書館で働かれるようになった武井さんを訪ねたことがあるが、医者や看護婦の方々が、優秀な図書館司書としての武井さんの仕事に、援けられているのを垣間見ることも出来た。その実績から、病院患者図書館についての情報も、公表される前からいろいろ寄せてくださり、患者図書館がしっかり機能することを心から願っておられた。

その患者図書館は、市民病院の 9 階に確保されているが今だ機能せず、数個の空に近い書棚が置かれているのみだ。武井さんはきっと心残りであったろう。みんな頑張って患者図書館を機能させてよ、といっているあのｿﾌﾟﾗﾉの澄んだ声が聞こえてくる。

武井さんを知る会員に、追悼の意を込めて寄せてもらった文をここに紹介する。　　（増山）

**夢をありがとう！**

5年前になりますが、それまで病気にはあまり関係のなかった連れ合いが胃癌とのことで2ヶ月の間に3回の手術をしました。不安や恐れを抱きながら病院の中をウロウロしていた時、廊下でばったり武井さんにお会いしました。ほんのちょっとの立ち話でしたが、病院図書館のための資料の整理などに努めているとのこと。工事中の病院内は落ち着かない雰囲気でしたが、やがてすばらしい病院が出来、その中にだれでも利用出来る図書館が出来るのだという夢を見させてくれました。「あぁ病院の中にも図書館が新しく出来て、顔なじみの武井さんが居てくれるんだ」と、その時ほっと癒されたことを思い出します。

工事も終り、見違えるようなきれいな病院になりました。連れ合い（主人）も元気になり、最近たまたま病院へ行った時、武井さんの姿を無意識に探していました。それなのに、5月に亡くなられたというはがきを頂き、茫然としてしまいました。一度、以前の市民病院の図書室を見学させていただきましたが、新しい病院図書館で武井さんの笑顔にお会いしたかった！　（伊藤倭子）

しばらくお会いしていない、仕事が忙しいんだ。と思っていたところに訃報が届いた。ご夫君からで「図書の仕事と歌とコーヒーを愛し新緑の季節に 64 歳の生涯を閉じた」と記されていた。最高のラブレターだと思った。

武井さんには知的な印象がある。よく通るすんだ声で発音し、主に病院図書館の現状や課題を熱心に話された。仕事の合間を縫ってよく出席されたと思う。神さまはいい人ほど早く連れていってしまうと友が言っていた。

武井さん、ありがとうね。忘れない。
（桃澤洋子）

**患者図書館開設に努力します**

武井澄子さんのまさかの悲報を受け取り、ショックを受けています。武井さんからは、病院患者図書館に関する情報や資料をたくさんいただきました。町田市民病院の病院患者図書館が実現できないでいる現状は、武井さんにとってもさぞかし心残りのことと思います。

先日、病院患者図書館協会の菊池佑さん、町田市立図書館長の守谷信二さんと一緒に飲む機会がありました。その時に、市民病院に患者図書館を開設することを確認し合いました。幸いなことに、患者図書館ができるはずだったスペースは、そのまま残っています。それを生かさない手はありません。武井さんにもうお目に掛かれないと思うと、残念でなりません。武井さん、どうか安らかにお眠りください。そして、天国から私たちの活動を見守ってくださるようお願いいたします。　　（手嶋孝典）

何回かは、「すすめる会」でお会いしたりしており、また、町田市民病院の図書スペースを見学しに行ったおりに説明をしてくださったのでした。病院図書館の必要性について静かに根気よく活動をつづけていられるのだなと感じたものです。最近はお仕事がいそがしくて、すすめる会には出ていらっしゃれないのだろうと思っていたら、亡くなられたと聞かされびっくりしました。

病院図書館のこともこれからの課題だと改めて思い知らされました。武井さん、もっと交流出来なくてほんとに残念です。　　（丸岡和代）

## 学校図書館問題でお世話になりました

武井さん、図書館まつりでお会いできることを楽しみにしておりました。図書館まつりの準備中に、喪中のお葉書をいただき、叶わぬ夢と知りました。随分ご無沙汰してしまっていたので、お会いできなくて本当に残念です。

町田市に図書指導員が入る時、モデル校の南大谷中学校に、小林陽子さんと一緒に私を連れて行って下さり、校長先生に紹介して下さいました。資格をとったばかりで、右も左も分からぬ私に、丁寧に司書の仕事を教えて下さいました。

お優しいお顔と、静かに響くお声と、落ち着いた物腰と･･･、傍にいて下さるだけで安心でした。天国で、大好きなコーヒーを飲みながら、ゆっくり読書をお楽しみ下さい。

そして、私たちのことも、いつまでも見守っていて下さいね。　　（市川博子）

10 年以上前になるでしょうか。小山田南小学校で図書ボランティアをやっていたころから、武井さんにはたいへんお世話になりました。いつもおだやかで、図書館のわからないことについて、丁寧に教えてくださいました。私が町田の学校図書館を考える会の代表になって会員メールを送信するようになってからは、時々メールで励ましの言葉をかけてくださいました。武井さんのメールを読みますと、気持ちがほっとしました。しかし情けないことに、お気遣いくださる武井さんにお礼の返信もまともにせず、今となってはお届けすることができなくなってしまいました。後悔先に立たずです。

武井さん、励ましの言葉ほんとうにありがとうございました。この気持ちがどうか届きますように。

ご冥福お祈りいたします。　　（伴　紀子）

武井さんと初めてお会いしたのは、16年前でした。図書館にとても強い思いを持っていらっしゃる方だなぁ、との第一印象でした。

その後、私は町田市でスタートした学校図書指導員として、モデル校に入ったのですが、基本の分類、本の配置などを教えていただきました。

しかし、続けていく中で、様々なとまどいがありました。そのとまどい、不安、不満などを武井さんにお会いする度にぶっつけていたのです。その度に「そうね」「そうね」「それはおかしいわね」「あなたの思うようにやってみたら」と共感していただいていたのです。

武井さんにお会いすると、不思議に「頑張らなければ」と意欲がわいてきました。そして、しぼみそうになると、又お会いして、共感していただいていたのです。残念です。とても残念です。「そうね」と共感していただいた武井さんの言葉が、声が、もう聞けないのです。

彼岸の世界で今、何をお読みですか？　本当に、本当にありがとうございました。（谷釜房子）

## 30年前のこと

武井さんは、木曽山崎分館の開館時に分館のお掃除に民間の委託業者の募集に応じて来ていただきました。その時の話しでは、本が好きなので、本があるそばで仕事がしたかったとのことでした。まだお子さんが幼稚園くらいのときでした。ちょっと前の出来事のように感じています。　（玉目哲廉）

# ひろば

**<例会報告>**

11/17(水)18:00-20:00
中央図書館中集会室
会報 154 号印刷（16:30～）
伊藤、島尻、丸岡、桃澤

**出席者**:石井、伊藤、片岡、斎川、高橋
玉目、手嶋、丸岡、水越、桃澤

- 11 月 23 日亀山郁夫氏講演会準備、手順、役割分担を細部にわたるまで確認（⇒奏功し、つつがなく、成功裡に終了）。
- 2011 年 11 月 13, 14 日に東京・多摩地区にて開催される全国図書館大会について／町田より実行委員会に手嶋・玉目・守谷・増山が加わり、市民参加の分科会をひとつ受け持つことが話し合われている。どのような分科会を希望するのか話し合う／図書館協議会の必要性とそれを支える市民運動という視点から／町田の提案として、各地域のネットワークづくりを進める、連合体をつくるというのは？／図書館に市民が参加する媒介として図書館協議会がある、という視点を打ち出しては？
- 図書館友の会全国連絡会の院内集会に出席した水越さんからの報告／国会混乱中で市民 100 人に対し、参加議員は1人、秘書 59 人、それもバタバタと出入りの激しい落ちつかない会議となった／しかし、前回の会議のテーマが公共図書館のみだったのに対し、今回は学校図書館にまで広がった／視覚障がいのある保護者に対し、学校からのプリントなどを、代読・代筆するサービスが図書館に求められている、などの提案が NPO 大活字振興会からあった／この会議の前後にも活発なロビー活動があり、その必要性を強く感じた。また、地方議会レベルでのロビー活動の必要性も痛感。

**町田の学校図書館を考える会**
**連続講座 Part3＆4 ／中央図書館6F**

**「子どもへのレファレンス」**
講師:上平操氏（元町田市小学校司書教諭）
2011 年 1 月 22 日（土）13:30～／中集会室

小学校で長く図書館を使った授業を実践してきた上平先生に、学校図書館を使った調べ学習でのレファレンス事例をお話しいただきます。あわせて調べ学習に便利な、図書館に必須の基本図書などもご紹介いただきます。

**「読書・学校図書館で育つ子どもの力」**
講師:鎌田和宏（帝京大学専任講師）
2011 年 2 月 20 日（日）13:30～／ホール

学芸大学附属小学校での実践から、子どもたちが日常の中でであった疑問や不思議を図書館で調べることで、自ら学ぶ力を獲得していく様子をスライドなどを使って楽しくお話しいただきます。図書館の大切さだけでなく、これから教員を目指す人にとっても子どもたちの目線で子どもたちに接する温かな姿勢が大きな励ましになることでしょう。ちなみに鎌田先生は町田市のご出身です。
**直接会場へどうぞ！ （問合せ:伴 042-797-9579）**

2011年度 第11回 **文学館(主催)で楽しむ**
**おとなのためのおはなし会**
**1月 19 日（木）10:30～11:30**
**町田市民文学館 2F大会議室**

**プログラム**
＊町田ゆかりの作家「後藤竜二」 遠藤文子
＊七羽のカラス （グリム童話） 大澤里子
＊くずの葉ものがたり （日本の昔話） 尾作一江
＊「白いシカ」（ジプシーの昔話） 伊藤倭子
*直接会場へどうぞ！ 語り:まちだ語り手の会*

【お知らせ】
- **講演会「ｼﾘｰｽﾞ いま、世界の子どもの本は？」**／1/22（土）14:00～16:30（予定）／第一部「韓国の子どもの本の現在」（仮題）講師:大竹聖美氏（東京純心女子大学准教授）／第二部「ｸｫﾝ・ユンドク氏（絵本作家）へのインタビュー」聞き手・通訳:大竹聖美氏／申込締切:1/7（金）申込多数の場合抽選。詳細は国際子ども図書館HPに。
- **親地連創立 40 周年記念のつどい**／3/5(土) 13:30～17:00 代々木ｵﾘﾝﾋﾟｯｸｾﾝﾀｰ国際交流棟／対談「あまんきみこさん＆広瀬恒子代表」／問合せ:市川（03-3488-8138）,江森（03－3950－6168）

**あとがき** 今年も嘱託員労働組合に来賓としてすすめる会を代表して参列した（ｐ５）。東京や八王子などからも組合関係の人が見え、このように80％以上の組織力がある町田の図書館は委託など起きないだろうと挨拶されていた。ほんとに彼女たちの力はすごい！ NPO を立ち上げ委託で図書館を運営している人たちが口をそろえて、市職員として働いていた時よりもずっと仕事がｽﾑｰｽﾞに捗り、大事なことにチャレンジできると｢｢と話していたが、なんとも複雑な気持ちになった。行政の中で、職員が持つ力を 100％活かす事が何故できないのか、市職制度の改善は図れるのか。嘱託労働組合のスローガンの一つに「質の高い図書館サービスを確立することで職場を守ろう」を掲げているが、正職員にもそんな気構えがあるのだろうか？ 彼女等の来年に期待をしたい。（M⁴）